

Title	談話解釈における時況節alors que節の機能
Author(s)	高橋, 克欣
Citation	言語文化共同研究プロジェクト. 2023, 2022, p. 20-29
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/91546
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

談話解釈における時況節 *alors que* 節の機能

高橋克欣

1. はじめに

筆者は高橋(2022)において、主節との時間的同時性をあらかず時況節である *quand* 節および *comme* 節が、主節に対して前置される場合と後置される場合の機能の違いについて、談話解釈の観点から考察した。本稿ではこれに続き、同じく主節との時間的同時性をあらかず時況節である *alors que* 節を考察の対象とし、その談話解釈上の機能について考察を行う。

本稿の構成は次のとおりである。まず2節で *alors que* 節の特徴について述べられた文法書等の説明を確かめる。続く3節では *alors que* 節のさまざまな実例を取りあげ、具体的な分析を行う。4節では事態認識と時制形式および構文の選択について論じ、5節では談話解釈の観点から *alors que* 節の機能を説明することを試みる。最後に6節で本稿のまとめを行い今後の課題に言及する。

2. *alors que* 節に関する文法書等の説明

ここではまず、*alors que* 節の実例の分析を行う前に、文法書等における *alors que* 節に関する記述を概観する。

Nouvelle Grammaire du Français では、*alors que* 節は、*tandis que* 節とともに同時性 (*simultanéité*) をあらかずと説明され、また対立 (*opposition*) や譲歩 (*concession*) をあらかず節としても取りあげられている¹。同時性、対立および譲歩の例として、次の(1)~(3)の例文が示されている。

(1) Julien est arrivé sans prévenir alors que nous étions à table.

(2) Cet été a été très chaud, alors que l'été dernier a été très froid.

(3) Marie n'est pas venue à mon anniversaire alors qu'elle m'avait promis de venir.

(1-3 : *Nouvelle Grammaire du Français*)

また、曾我(2011)では *alors que* 節について次のように説明されている。

6) はあらたまった文体の発話です。 *alors* は、本来は「そのとき」を表す副詞で、6)ではコトと同時の状況 C を導いています²。ふつうのことばづかいの場面では、<*quand* 節>や

¹ *Nouvelle Grammaire du Français* での説明は次のとおりであり、*pendant que* 節と同じ機能を持つが対立のニュアンスを伴うという。

Ces deux conjonctions (= *alors que* / *tandis que*) ont le même sens que *pendant que* mais avec une nuance d'*opposition*.

² 曾我(2011)における例文 6)は、本稿の例文(4)に相当する。

<pendant que 節>を使うところです。

(4) Alain s'est intéressé aux mangas *alors* qu'il était étudiant à Paris. (曾我(2011))

アランはマンガに興味をもった，パリで学生だったころ³。

曾我(2011)の記述から分かることは，*alors que* 節は，事態の定位機能の観点からは *quand* 節や *pendant que* 節と同様に，主節であらわされる事態と同時に生起する事態をあらわすはたらきをもつこと，文体の観点からは *quand* 節や *pendant que* 節よりもあらたまった表現であるということである。

さらに，*alors que* 節の特徴として「観念の領域においてコトと対比的・対照的な C を表すときに，*alors* をよく使」うことが指摘され，次の(5)および(6)の例があげられている⁴。

(5) Léa regarde le JT *alors* que son frère prépare le petit déjeuner. (曾我(2011))

レアはニュースを見ている，弟が朝食のしたくをしているのに。

(6) *Alors* qu'elle aimait beaucoup lire avant, elle ne lit plus du tout. (曾我(2011))

彼女は前は読書が大好きだったのに，もう全然本を読まない。

曾我(2011)が述べるように，(5)の *alors que* 節は，主節であらわされる事態と時間的に同時に生起する事態をあらわしているが，(6)では主節であらわされる事態と *alors que* 節であらわされる事態の間には時間的なずれが認められる。このことから，*alors que* 節の機能として，主節の事態との同時性をあらわすことは常に成立するわけではなく，主節の事態と何らかの意味において対比されるべき関係にある事態をあらわすことがその本質的機能であるということが分かる。

これらのことをふまえると，談話解釈における *alors que* 節の特徴を次のように定義することができる。

談話解釈における *alors que* 節の特徴

alors que 節は，同時性や対立・譲歩など何らかの意味で，主節であらわされる事態と関連づけられる事態を談話内に導入するはたらきを持つ。

上で概観したように，文法書等では一般に，*alors que* 節の特徴として同時性のみならず対立・譲歩などのニュアンスを伴うことが説明されることが多い。このことは実際の用例においてどの程度当てはまるであろうか。次節では *alors que* 節および主節において用いられる

³ 例文の日本語訳は曾我(2011)による。

⁴ 例文の日本語訳は曾我(2011)による。

時制形式に着目し、実例の分析をつうじて *alors que* 節の談話解釈上の機能について具体的に論じる。

3. *alors que* 節の実例の分析

ここからは、現代小説において用いられた *alors que* 節を取りあげ、具体的な分析を行う。なお、次の(7)のように *c'est alors que*～の形で用いられる構文は分裂文の一種であると考えられ、別途論じるべき問題があるため、本稿では分析の対象として取り扱わない⁵。

(7) *C'est alors que je les vois : des clés sont accrochées sous le bureau de Starsky.*

(Valérie Perrin, *Les oubliés du dimanche*)

3. 1. *alors que* 節が対立をあらわす場合

文法書等で、対立の意味をあらわすとされる *alors que* 節の用例としては、次のようなものがある。

(8) *Calme-toi, Odette, calme-toi. Alors qu'elle avait plus de quarante ans, son cœur s'embattait aussi vite que celui d'une adolescente.* (Eric-Emmanuel Schumitt, *Odette Toulemonde*)

ここで注目すべきことは、*alors que* 節および主節で用いられている動詞 *avait* および *s'embattait* がどちらも直説法半過去形であるという点である。過去の同時期に成立していた2つの事態を対立関係において捉えるために、このようにどちらも過去の状態をあらわす時制形式が用いられるのは自然であるといえる。

また、半過去においてのみこのことが成り立つわけではなく、2節で概観した *Nouvelle Grammaire du Français* で示された以下の例文においては、*alors que* 節および主節で用いられている動詞はどちらも直説法複合過去形の *a été* である。

(9)=(2) *Cet été a été très chaud, alors que l'été dernier a été très froid.*

このことは、現在時制の場合にも当てはまる。

(10)=(5) *Léa regarde le JT alors que son frère prépare le petit déjeuner.*

alors que 節と主節で用いられる動詞の時制形式がずれていても、対立の意味効果があらわれることがある。(11)では、*alors que* 節で用いられた直説法半過去の動詞 *aimait* と主節で用いられた直説法現在の動詞(*ne*) *lit (plus)*が、過去の状態と現在の状態との対立関係をあらわ

⁵ このような *alors que* 節について分析した論考として、渡邊(2015)などがある。

している⁶.

(11)(=6) Alors qu'elle aimait beaucoup lire avant, elle ne lit plus du tout.

3. 2. alors que 節が同時性をあらかず場合

一方、文学作品等で用いられた *alors que* 節の実例を観察すると、*alors que* 節と主節の事態の間にならずしも対立的な意味が認められるとは考えにくい例も散見される。そのような場合には、*alors que* 節が主節に前置されていることが多く、また *alors que* 節で直説法半過去形が用いられ、主節では直説法複合過去形や直説法単純過去形が用いられることが少なくないように思われる。以下では、異なる作品からの引用例を分析する。

(12) Surpris, je laissais tomber ma lampe torche. Alors que je me baissais pour la ramasser, je vis soudain la porte qui se refermait sur moi. (Guillaume Musso, *L'instant présent*)

(12)では、落としたランプを拾い上げるという事態と突然扉が(再び)閉められるのを見るという事態が対立的な意味関係において捉えられているとは考えにくい。むしろ、ここでの *alors que* 節は、主節の事態が生起する場面を提示するはたらきをしているというのが自然な解釈ではないであろうか。

次の(13)も、状況把握を容易にするためにやや長めの引用となるが、やはり *alors que* 節であらわされるエスカレーターの前に到着しかかるという事態と主節であらわされる自問するという事態とは同時性の関係にあり、意味的な対立関係をあらわしているとは考えにくい。ここでも *alors que* 節は、主節の事態が生起する場面を設定していると解釈するのが妥当であるように思われる。

(13) Providence se faufila dans la foule et prit le chemin de la sortie. Elle avait l'impression qu'il lui faudrait encore marcher des kilomètres pour sortir de ce terminal oppressant. Sans doute parce qu'elle devait slalomer en permanence entre tout ce monde, ce qui la ralentissait beaucoup, sans compter qu'il y avait plusieurs minutes déjà qu'elle marchait sur un tapis roulant en sens contraire...
Alors qu'elle arrivait devant l'escalator qui menait aux portes de la navette Orlyval, elle se demanda si elle ne devait pas attendre d'être sûre que son vol était annulé pour quitter l'aéroport.

⁶ (11)の例においては、主節の動詞が単に直説法現在形であるということではなく、*ne~plus* (かつては~だったが、もはや現在は~ない) という、過去の状態に関する前提を伴うアスペクト表現とともに用いられている点を考え合わせることに留意すべきであろう。

(Romain Puértolas, *La petite fille qui avait avalé un nuage grand comme la tour Eiffel*)

(14)も同様の例として解釈することができる。

(14) Alors que la voiture quittait la ville et parcourait la campagne, Alice regarda défiler les pâturages et se demanda si elle n'aurait pas préféré rester sur le plancher des vaches, quitte à ce que le voyage dure plus longtemps.

(Marc Levy, *L'étrange voyage de Monsieur Daldry*)

談話解釈の観点からは、同じ時況節でも主節に対して前置されるか後置されるかによっても果たされる機能は異なる点に着目する必要がある。本節で取りあげた *alors que* 節が同時性をあらわすと考えられる例は *alors que* 節が主節に対して前置されている。Riegel et al. (2016)は、主節に対して前置された時況節は主節によってあらわされる事態が位置づけられる枠組みを提供すると述べている⁷。

もつとも、*alors que* 節が後置される場合でも、特段の意味的対立関係が認められず、前置される主節との同時性をあらわすと解釈されることがある。

(15) Il se pencha par la fenêtre pour contempler le ciel en renversant la tête et Lola Baratier future madame Milan sentit le sol devenir étrangement mou et traître alors que des papillons se réveillaient dans un très lointain recoin de son estomac.

(Angélique Barbérat, *Bertrand et Lola*)

さらに、主節で用いられる動詞の時制形式は直説法単純過去形や直説法複合過去形とはかぎらず、次の(16)や(17)のように直説法大過去形であっても *alors que* 節が同時性をあらわすために用いられていると解釈できる例がある。

(16) Ce fumier avait redémarré la machine alors que les derniers cris de Giuseppe résonnaient encore dans le hanger. (J.P. Didierlaurent, *Le liseur du 6h27*)

(17) En outre, la direction avait convenu que, peut-être, le dénommé Garminetti, ex-opérateur en chef de la Zerstor 500, avait été victime d'un incident regrettable ayant entraîné la reprise soudaine de l'activité alors qu'il se trouvait malencontreusement dans la fosse à ce moment-là. (J.P. Didierlaurent, *Le liseur du 6h27*)

⁷ ここでは原文の *propos* に対して「主題」という訳語を充てている。

これらの例から明らかなように、実際には **alors que** 節が主節であらわされる事態との対立関係をあらわすと解釈するのは難しい場合がある。したがって、**alors que** 節が対立関係をあらわすというのは、**alors que** 節と主節においてそれぞれ用いられる動詞の時制形式の組み合わせが、対立関係を読み込むのにふさわしい場合において顕著にあらわれる意味的特徴であると考えるのが妥当ではないかと考えられる。

4. 事態認識と時制形式および構文の選択

前節では、談話解釈上 **alors que** 節が持つ意味的特徴としての同時性と対立関係のどちらがあらわれるか、という問題には、**alors que** 節および主節で用いられる動詞の時制形式が関与している可能性があることを指摘した。

このことは、我々の事態認識と時制形式の組み合わせ、および時況節の機能との間に相関関係があることを示唆している。時制形式のはたらきを考えるとき、個々の時制形式の用例を単独の形で考察するだけではかならずしも見えてこないことであるが、複数の時制形式が連続して用いられるとき、どのような構文においてどのような組み合わせでそれらが用いられているかということは、我々が一連の事態をどのような関係づけのもとで解釈しているか、という認知的操作の結果としてあらわれるものであり、ある特定の時制形式や構文の選択には、そのような意味での我々の事態把握のあり方が反映されているのである⁸。

このことをさまざまな時況節を対象として具体的に論じるためには、認知言語学的な考察が有効であると考えられるが、そのような観点からの考察は本稿の枠組みを大きく超えることになるため、稿をあらためて論じることとしたい。

5. 談話解釈における **alors que** 節の機能

最後に、談話解釈の観点から **alors que** 節が果たす機能について考察する。そのために、筆者がこれまでに **quand** 節の機能に関して提示した主張を確認しておきたい。高橋(2016)では、**quand** 節の機能について次のように述べた。

quand 節の機能

quand 節の機能は、主節の事態が生起したのがいつであるかを示すために場面の設定を行うことにある。そのためには、**quand** 節において用いられる時制の解釈が主節とは独立した形で得られる必要がある。

3節で具体例を分析した際に論じたように、**alors que** 節の解釈には常に対立の意味が伴うとはかぎらないため、**alors que** 節の談話解釈上の機能として対立の意味関係を組み込む

⁸ ここでは「構文」という語は、それぞれの時況節が、主節に対して前置される場合と後置される場合をそれぞれ区別して扱うために用いられている。

ことには問題があると考えられる。また、*alors que* 節の解釈において主節との同時性が常に成立するわけではないことも考慮する必要がある。このような意味において、*alors que* 節が談話解釈上 *quand* 節とも *comme* 節とも異なる機能を持っていることは明らかである。

このことをふまえ、談話解釈の観点から *alors que* 節の機能を説明すると、次のようになると考えられる。

alors que 節の機能

alors que 節の機能は、談話解釈上、当該の事態を主節の事態と関連づけることにある。どのような形で関連づけられるかについては、*alors que* 節と主節のそれぞれにおいて用いられる時制形式の解釈機序によって、同時性の関係となる場合もあれば、対立・譲歩の関係となる場合もある。

なお、高橋(2021)では、直説法半過去形が、主節との同時性をあらかず時況節と考えられている *quand* 節および *comme* 節の中で用いられる場合の解釈の違いについて次のように述べた。

quand 節および comme 節の中で半過去が用いられる場合の解釈の違い

quand 節において半過去を用いて場面設定（または場面特定）の機能を果たすためには談話内に何らかの利用可能な解釈資源が存在する必要がある、必然的に *quand* 節中の半過去の使用は限定的なものとなる。その一方で *comme* 節において半過去を用いる場合には主節の事態との関係によってひとつの文の中で半過去の解釈が成立するため、半過去の使用は特に問題とならない。

ここに同時性をあらかず *alors que* 節において直説法半過去形が用いられる場合をくわえると、次のような形になる⁹。

⁹ 石野(2014)は、次のように *alors que* 節が独立節として用いられている例の存在を指摘しており、*alors que* 節の解釈が主節と独立してなされる場合があることが示唆されるが、このような例の談話解釈上の機序については、稿をあらためて論じることとしたい。

Les hommes croient que les machines travaillent pour eux. *Alors que* ce sont eux, désormais, qui travaillent pour elles. (Robbe-Grillet, in 石野 (2014))

quand 節, comme 節および alors que 節の中で半過去が用いられる場合の解釈の違い
quand 節において半過去を用いて場面設定（または場面特定）の機能を果たすためには
談話内に何らかの利用可能な解釈資源が存在する必要がある、必然的に quand 節中
での半過去の使用は限定的なものとなる。その一方で comme 節において半過去を用いる
場合には主節の事態との関係によってひとつの文の中で半過去の解釈が成立するため、
半過去の使用は特に問題とならない。alors que 節において半過去を用いる場合にも、
alors que 節と主節が関連づけられて解釈されるため、主節で単純過去や複合過去、ある
いは大過去のような自立的な時制形式が用いられる場合には、alors que 節における半過
去の使用に対して特段の制約は存在しない。

ここで本稿における alors que 節についての考察を筆者のこれまでの主張と重ねることで、
主節との同時性をあらかず時況節と考えられる quand 節, comme 節, alors que 節それぞれ
のちがいを明らかにするためには、談話解釈上の機能という観点からそれぞれの時況節の
機能を考察する必要があることがより明確になったと考えられる。

6. まとめと今後の課題

本稿では、対立関係のニュアンスを伴い時間的同時性をあらかず時況節であると説明さ
れる alors que 節の談話解釈上の機能について、文学作品からの複数の引用例の分析をもと
に考察した。

本稿での考察により、主節と alors que 節で用いられる時制形式の組み合わせによっては
alors que 節の解釈において主節との同時性が常に成立するわけではないものの、alors que 節
の解釈には常に対立の意味が伴うとはかぎらないこと、また alors que 節の談話解釈上の機
能を統一的な形で説明するためには、我々の事態認識とその言語化に関する認知言語学的
な考察が有効であることが確認された。

本稿では、他の時況節と比較したうえで alors que 節の談話解釈上の機能についてじゅう
ぶん説得的な説明を与えるには至らず、いくつかの実例の分析をつうじて、alors que 節の
特徴を記述する段階にとどまった。今後は、作例等の検証も行いながら、談話解釈上 alors
que 節が担う機能が quand 節や comme 節, pendant que 節などの機能とどのようにちがうの
かということ、より包括的かつ精密に論じることを目指したい。

その際、とくに談話解釈の観点からは、次のような用例の分析も必要となることが考え
られる。高橋(2022)でも指摘したように、同一文中で alors que 節が他の時況節と併用され
ることがあるが、このような事例について談話解釈の観点から詳しく考察した先行研究は
ほとんど見受けられない。

- (18) Quand il entra dans le bistro avec d'infinies précautions et une moue d'huissier, alors que
nous peignons de rouge et de vert de très fons bouchons de balsa sculptés tout exprès pour

l'ablette, je compris que c'en était fini pour moi d'un grand pan de douceur.

(Philippe Claudel, *Le Café de l'Excelsior*)

このような例を分析するには、同時性をあらかず時況節がそれぞれ談話解釈上、異なるしくみで事態を定位することを想定し、それらの階層関係を明らかにするための考察が必要とされる。

さらに、2節で確かめたように、*alors que* 節は *tandis que* 節と同様のはたらきを持つと説明されるのが一般的であるが、このことについても、今後さらに具体的な用例の考察を行い、両者に談話解釈上の機能のちがいはないのかという点について検証する必要がある。

今後はこれらの問題についてさまざまな用例を詳細に分析したうえで考察を重ね、われわれ人間が複数の事態を認識し、それらを言語化するしくみについてさらに理解を深めることを目指したい。

参考文献

- Y. Delatour et al. (2004) *Nouvelle Grammaire du Français*, Hachette.
- Martin Riegel et al. (2016) *Grammaire méthodique du français*, 6^e édition, Presses Universitaires de France.
- 石野好一 (2014) 「フランス語接続詞の意味とニュアンス」『愛知県立大学大学院国際文化研究科論集』第 15 号, 23-44.
- 曾我祐典 (2011) 『中級フランス語 つたえる文法』白水社.
- 高橋克欣 (2016) 『「こと」の認識「とき」の表現 – フランス語の *quand* 節と半過去』京都大学学術出版会.
- 高橋克欣 (2021) 「談話における時況節のはたらきと半過去の解釈メカニズム – 談話的時制解釈の観点からの分析」『時空と認知の言語学 X』言語文化共同研究プロジェクト, 11-19.
- 高橋克欣 (2022) 「時況節の位置と談話解釈上の機能 - *quand* 節と *comme* 節の分析」『時空と認知の言語学 XI』言語文化共同研究プロジェクト, 11-18.
- 渡邊修吾 (2015) 「*C'est alors qu'apparut le renard* : 場面の転換を表す分裂文」『フランス語学研究』第 49 号, 87-107.